

86 じごくごくらくず 地獄極楽図



地獄図



極楽図

指 定 市有形文化財 昭和62年 3 月25日  
 所在地 白 田  
 所有者 弥 勒 寺



源信（恵心僧都）が、「往生要集」に説かれたといわれる仏教説話を絵画に表現した、地獄・極楽図で、縦2.23m横2.04mの宗教画である。

1 地獄図

五戒・十戒を破った者が、前世悪行の報いとして八大地獄におち、閻魔大王のもと、獄卒によってあらゆる責苦を受け、阿鼻叫喚する亡者の姿を描いたものである。

2 極楽図

生前に善行を積んだ念仏行者が、阿弥陀仏の来迎引撰（いんじょう 極楽浄土へ導く）を受け、六道をはなれて往生する世界、少しの苦難もなく、美しく、安楽のみがあるといわれる極楽世界を写したもので、阿弥陀三尊を中心に、七宝に飾られた殿舎、八功德水を湛えた宝池には蓮の花が開き、迦陵瀨迦（かりようびんが 仏教で雪山または極楽にいるという想像上の鳥）の歌う、清浄無垢の浄土善処図である。

両画はともに宗教画の大作で、作者北村安貞（後の玉隆）20歳代前半の作と推定され、菩提寺である弥勒寺に奉納寄進したものである。

作者は旧白田町白田に生まれ、幼い頃から父滝五郎と小県郡和田村秦燕恪に師事した後、23歳の時江戸狩野玉栄の門に入り画法を学び、師より玉の一字を許され以後中沢玉隆と称した。後に幕命によって京都仁和寺（御室御所）の絵師となり、文化元年（1804）法橋位を、また文化10年（1813）法眼位を授与された。